

令和7年度
北中学校
学校だより
3月2日号



かたくり

学校教育目標

『鍛え磨く』～知・徳・体～

東松山市立北中学校
東松山市大字松山 1895-2
Tel. 0493-23-1223
文責 西川 光治



それぞれの道を、力強く踏み出す春に

校庭の桜のつぼみが少しずつ膨らみ、春の足音がすぐそこまで聞こえてくる季節となりました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、この一年間、本校の教育活動を温かく支えていただき、心より感謝申し上げます。

年度末を迎え、生徒たちは今、それぞれの大きな節目に立っています。

3年生：進路決定という大きな壁に挑んだ日々

進路決定という大きな壁に挑みながらも、3年生は常に学校の先頭に立ち、北中を引っ張ってくれました。行事で見せた圧倒的なエネルギー、後輩を思いやる優しさ……。その姿は、まさに本校の「顔」であり、頼れるリーダーそのものでした。

正直言うと、そんな3年生が卒業してしまうことは、寂しくて仕方がありません。皆さんのいない校舎を想像すると、心にぽっかりと穴があいたような、大きな不安さえ感じます。しかし、皆さんが背中であげてくれた「伝統」と「誇り」は、しっかりと後輩たちの心に刻まれているはずです。

自分の将来と真剣に向き合い、不安や葛藤を乗り越えて進路を切り拓いてきた3年生。その努力のプロセスは、結果以上に大きな財産となるはずです。中学校生活で培った力を糧に、新しい世界へと力強く羽ばたいていくことを確信しています。

2年生：学校の「顔」となる自覚と責任

1月に実施した修学旅行では、自ら考え行動する姿、そして仲間と協力し合う姿が随所に見られました。この大きな行事をやり遂げた経験は、一人一人の確かな自信となっています。また、行事や部活動で中心的な役割を担い、着実に頼もしさを増してきた2年生。4月からは名実ともに最上級生、学校の「顔」となります。これまでの「伝統」と「誇り」を引き継ぎつつ、自分たちらしい新たな1ページを刻んでくれることを期待しています。

1年生：良きお手本、頼れる「先輩」へ

中学校生活に慣れることに懸命だった1年生も、後輩を迎える準備が整いました。2月のスキー教室では、雪山の厳しい自然の中で、ルールを守ることや集団生活の規律の大切さを肌で学びました。互いに声を掛け合い、支え合った2日間は、集団としての質を一段高める貴重な経験となりました。この学びを糧に、またこの一年で得た経験とともに自信に変え、次は「先輩」として、新入生を優しく導く存在へと成長してくれることを楽しみにしています。

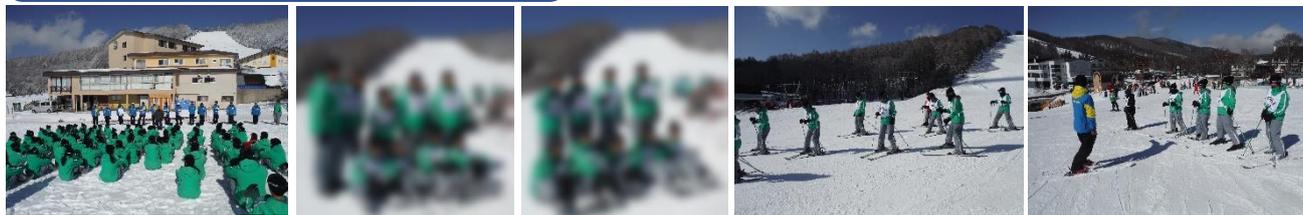
生徒一人一人が、この一年で積み上げた「自信」という名の種を、次なるステージで大きな花へと育てていけるよう、教職員一同、最後まで一丸となって支援してまいります。

今後とも変わらぬ御支援と御協力をお願い申し上げます。年度末の挨拶とさせていただきます。

<令和8年3月の主な行事>

日	曜	主な行事	日	曜	主な行事
1	日		17	火	学年末休業日（3年生）
2	月	人権教育講演会 国境なき医師団（白川優子氏）	18	水	2年生保護者会⑥
3	火	県公立高校追検査	19	木	1年生保護者会⑥
4	水		20	金	春分の日
5	木	デートDV講演会③④（3年）	21	土	
6	金	県公立高校入学許可候補者発表	22	日	
7	土		23	月	
8	日		24	火	給食最終日（1・2年）（小学校卒業式）
9	月	3年生を送る会準備⑤	25	水	ノーゲームデー
10	火	3年生を送る会①②③	26	木	修了式
11	水	卒業式全体練習③ ノーゲームデー	27	金	学年末休業日（1・2年生）
12	木	卒業式予行①②	28	土	
13	金	卒業式全体練習③ 卒業式準備⑤⑥	29	日	
14	土	第43回卒業式	30	月	
15	日		31	火	
16	月	振替休業日			

スキー教室（1年生）



1年生が、2月12・13日の一泊二日で、長野県菅平高原まで「スキー教室」に行ってきました。豊富な雪量に最高の天気恵まれ、スキーの技術が上達して帰ってくることができました。何より、インストラクターさんが親切に丁寧に粘り強く指導して下さったおかげで、初めてスキーをした人も、リフトに乗り、山を滑って降りてくることができました。楽しい2日間となりました。

人権教育講演会 国境なき医師団 看護師 白川優子さん

3月2日（月）に、PTAとの共催で「人権教育講演会」を開催いたしました。講師の方は、国境なき医師団の看護師として、世界で最も危険と言われる紛争地を中心に活動を行ってきた、白川優子さんです。実は、白川さんは、北中学校の卒業生でもあります。

戦場では、敵・味方、宗教、人種、そして政治的思想が激しく対立しています。しかし、白川さんが学んだことは、「医療の前に、すべての命は等価である。」という究極の平等とお話されていたことが印象に残っています。

飾らず、気さくな方で、皆さんの先輩という身近な方が、世界で活躍されていることに「誇り」を感じますし、国境なき医師団に参加したのが30代からとおっしゃっていましたが、物事を始めるのに決して遅いという事はない、と強いメッセージを感じ取ることができました。

